

## 保護者の方に聞きました

### 教員の「長時間超過密労働」について

保護者の方（5人）に「教員の長時間超過密労働」について文部科学省や県教委が調査した超過勤務を示す資料を送って感想をおたずねしました。アンケートにご協力ありがとうございます。

編集部

Aさんは「提示された資料も情報も少なく、月平均40時間強の超過勤務は確かに多いのですが、一般企業に比べるとどうなのか」と首を傾げました。Cさんは「正直、表題のような『超過密』とは感じられなかった」と言っています。Dさんも「残業時間に関しては民間企業に比べてみるとかなり少ないのではないのでしょうか」と感想を述べています。Eさんも同様に「この残業時間を見てかなり少ないのではないのでしょうか」と言っています。

先生の残業時間についての意見は、ほぼ以上に掲げたように民間企業に比べて「特別なものとは思わない」という意見になっています。

長時間労働がうつ病などの精神疾患症との関係については「精神面にマイナスな影響を与えていることは否めませんが、保護者对教員の人間関係や職場内での問題等、他にも要因は多く存在していると思います」（Aさん）。Cさんも「残業時間の長短だけでなく、職場の人間関係によるものが多いのではないか」と指摘しています。

「大事な子どもを預ける先生が精神障害になるようでは学校は安心して預けられる場所ではなくなっている」（Dさん）という指摘もありました。

Aさんは長時間労働が「教員の皆様の平常な勤務を圧迫し、子どもたちにゆとりを持って接することが出来ないのであれば、何が長時間労働の原因になっているのか考えていくべき」と提案しています。

最後にBさんの感想を掲げましょう。

女性の先生は大変だなあとと思う。同居しやなぎや無理だなあと同じ主婦、母親として思った。うちの主人は41歳のとき勤務中に倒れて障害者になった。朝は6時に出て帰りは夜の11時過ぎであった。正直、先生だけではない。時間では測れないさまざまなことがある。具体的大変さがもう少し保護者も知るべきではあると思う。